



## メークイン

舌ざわりが滑らかで、さまざまに調理できるジャガイモ



市内のメークイン畑では、5月中旬から6月下旬ごろにかけて収穫作業が行われています。生産農家の畔柳里美さん(神谷)は、「2月に種芋を植え、4月に1つの種芋から複数の芽が出ると、1本の芽に十分な栄養が行き渡るよう、ほかの芽を摘み取ります。5月中旬ごろ、花が散って葉が黄色くなり始めたら収穫をします。栽培で工夫していることは、もみ殻を焼いて炭化した自家製の『くん炭』を土壌改良材に使用していることです。メークインが育ちやすい中性の土壌になるだけでなく、通気性・排水性にすぐれた土になるため、形や味のよいものが育ちます」と栽培方法について話します。

「メークインは煮崩れしにくいいため、カレーやシチューなどに使うことが多いですが、今が旬の『新じゃが』は、皮がやわらかく、フライドポテトにすると皮までおいしく食べられるのでお勧めです」と話してくれました。今が旬のメークインは、市内の産直市で販売しています。皆さんも味わってみてはいかがでしょうか。



メークインの収穫をする畔柳さん

## ことしで創立50周年を迎える花を栽培するボランティア団体 富士市花の会



市内にある公園など46か所の花壇を、地区ごとに手入れしている「富士市花の会」。昭和42年8月に結成されてから、ことしで50周年を迎え、約700人の花の愛好家が、心を込めて花を育てています。代表の渡邊香美さん(伝法)は、「富士市を花でいっぱいにするこゝで、まちを元気にしたいという考えのもと活動しています。創立50周年イベントとして、6月下旬に、東日本大震災の被災地であり、富士市と交流のある宮城県気仙沼市大島に向いて、約600株の花を植栽する予定です。花の会だからこそできる、花を通じた癒やしの活動を今後とも続けていきたいです」と意気込みを話します。

「市ブランドメッセーJ』いただきへの、はじまり』を大事にして花の会にとつて創立50周年は、富士山に例えると5合目です。花を通して富士市に貢献ができるよう、次の50年も『いただき』を目指して精いっぱい活動します」と話してくれました。★「富士市花の会」は、会員募集中。詳しくは、みどりの課にお問い合わせください。 ☎(55)2793



花壇の手入れをする、富士市花の会の会員の皆さん



★我が家のアイドル大募集!!  
あなたの子どもの写真とコメントを募集しています。  
ご応募の際には、  
①子どもの写真(顔全体が写っている横写真)  
②子どもの氏名(ふりがな)・生年月日  
③20文字程度のコメント  
④応募者の住所・氏名・電話番号  
※掲載の際にシティプロモーション課から連絡します。必ず連絡がとれる連絡先を明記してください。  
詳しくはシティプロモーション課まで。  
☎(55)2700 ☎(51)1456  
E so-citypro@div.city.fuji.shizuoka.jp



大石 紗椰ちゃん (横割6)  
H28.8.2生  
「たくさん遊んで健やかに大きくなりますように♪」



佐野 玲斗ちゃん (森島)  
H29.1.12生  
「佐野家の宝物。たくましく育ってね。愛してる♥」

